

5年生 単元名「大造じいさんとガン」

受容と共感で笑顔あふれる学校づくり
～ちがいを豊かさとして ともに言葉で学び続ける子の育成～

○研究テーマに迫るための日常の手立て（成果・課題）

【日常における手立て】

○互いの思いや考えを共感的に伝え合う話し合い活動

国語の学習に限らず、普段の授業の中でも「話す・聴く」活動を大切にしている。授業の時間だけでなく、朝のスピーチや話しやすいテーマでのフリートークの活動などを取り入れ、全員で話し合うことの良さや楽しさを感じられるようにしている。

【成果と課題】

成果：相手の話を最後まで聴き、何を伝えたいかと傾聴する姿が多く見られるようになった。一人一人のあたたかい反応のもと、話しやすい雰囲気も生まれてきている。

課題：発言する児童に偏りがあり、自分の思いを伝えたいと思えるような課題の設定などを考えていきたい。

○本単元について（成果・課題）

【本単元における手立て】

○語り

本単元に入る導入として、児童それぞれの物語やまんが、アニメ、映画などの「押しポイント」（魅力）を語り合う時間を設定した。他者に伝える楽しさを実感すると共に、それぞれ「押しポイント」の視点が異なり、多様であることに気づかせたい。この活動を通して、本単元でも1人1人の考えを認め合い、互いの考えを受け入れながら物語を読み深められるようにしたい。

○言葉に立ちどまる

登場人物の人物像や残雪に対する心情の変化をつかむために、細かい表現や叙述に立ちどまらせたい。既習の「たずねびと」での読み方を生かし、本単元の前置きの役割や冒頭の「今年も」「銃を再び下ろしました」「ガンの英雄」など表現の意味や変化の理由について考えながら、中心人物の変容を読み取れるようにしたい。

【成果と課題】

成果：今まで学んできた物語の読み方（見方・考え方）を事前におさえることによって、情景描写や物語の山場など、自分なりの視点をもって読みを深めることができた。

課題：一人一人の考えやその記述量に差がある中で、より前向きに自分の課題を設定し一人読みをしていけるような学習の工夫が必要である。

